

第 8 回鈴鹿山系連絡協議会報告

2019 年 11 月 9 日（土）、第 8 回鈴鹿山系連絡協議会を行いました。

朝 7 時～10 時、武平峠付近にて登山届啓発キャンペーンを実施。鈴鹿スカイライン武平トンネル滋賀県側登山口 2 ヶ所で、御在所岳、鎌ヶ岳、雨乞岳への登山者に登山届を記入してもらい、ヘッドランプ、非常食など携行品のアンケートを実施しました。

キャンペーンは滋賀県山岳連盟が主管して行い、応援に大阪府山岳連盟始め、京都府山岳連盟、滋賀県警総勢約 20 名が応対。青空が広がる絶好のハイキング日和となった当日、御在所岳、鎌ヶ岳への登山者 14 パーティ 20 名、雨乞岳への登山者 51 パーティ 101 名に対して、登山届の記入と安全登山の呼びかけを行いました。



早朝より登山を開始する登山者で、「コンパス」など電子届で提出している方を数名見かけましたが、ほとんどの方が登山届を持参しておらずその場で記入してもらいました。また携行品では、ヘッドランプや予備食といった、万々に備えた装備のない方が大半で、改めて

啓発の必要性を感じました。

続いて、13時～17時、場所を菰野町町民センターに場所を移して、三重県山岳・スポーツライミング連盟主管で連絡会議を実施しました。

各府県の現状及び活動報告と課題の報告があり、遭難対策については過去1年間の事故と救助の概要を、また自然保護から活動の概要と課題などが報告され、それぞれ意見を交換しました。

冒頭、三重県警山岳警備隊より、この1年で死亡者は減っているが事故件数は増えている、特に今年は20代～60代以上と幅広い年齢層の登山者が、道迷いを主たる原因として事故にあっていると報告があり、低山でもしっかり啓蒙することが必要、また山域は各府県の境界になっていることから、隣接する県との協力体制を強化したいと述べられました。

大阪からは、村上技術遭対委員長より、上記報告事項に加えて、遭難の際の早期発見に役立つココヘリを推奨してはどうかと問題提起がされ、三重県警より「登山計画書に、位置発信器（ココヘリ）IDを記入する欄を設けている」など、取得啓蒙に繋がる活動を実施しているという報告がされました。

その他、愛知山岳連盟が実施に協力しているイベント「夏山フェスタ」が、2日間で8,788名の参加者で賑わい、岳連が捉えているニーズとマーケットの実態が乖離しているのではないかと意見があり、各連盟の関心を惹いていました。

また、道標に対する意見交換がされ、「登山道」というテープを巻き他の道と区別するだけでも道迷いは減るという意見や、「現在地、行先や山道名」を記す標識を警察主導で全国統一してほしいといった意見も出ましたが、結論は得ませんでした。



次回は、滋賀岳連主管で実施されます。

尚、参加団体は次の通りです。(山岳連盟) 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、愛知、岐阜、(その他) 三重県庁スポーツ推進課、三重県警山岳警備隊

報告者：広報 佐伯典昭